

*Crown English Communication II*, p. 5.

**Lesson 1****Around the World on a Bike**

Hirata Oriza is one of Japan's most famous playwrights. When he was just 16, he made a 16-month around-the-world trip on a <sup>(1)</sup>bicycle. Soon <sup>(2)</sup>after the trip, when he was 18, he wrote a book about it.

—1

I've always loved bicycles and traveling, even when I was a kid. When I was 13, I made a plan to cycle around the world. I told people I was going on a world tour, but no one would take me <sup>(3)</sup>seriously. They would say, "Forget your silly dreams. Keep your feet on the ground." But that didn't stop me. If I succeeded, fine. <sup>(4)</sup>If not, I would learn to live with failure. My motto is: "Flexibility and optimism."

I began to plan seriously. I decided to go to a night high school so I could work during the day to make money for the trip. I worked in a *ramen* shop, in a bakery, and as a newspaper boy. Luckily, my parents supported me. They respected my wish to be independent.

I took a two-year <sup>(5)</sup>leave from my high school. I bought a new bicycle, picked up my passport, and got an airplane ticket to Los Angeles. On May 5, 1979, I was on my way.

## Lesson 1 – Lead

(1) bicycle 図, p.191.

**bi·cy·cle** /báísk(ə)l/ [bi(2つの) cycle (輪)]

— 図 (●) ~s /-z/) 自転車 (《くだけて》bike) ▶ride a bicycle 自転車に乗る[乗っていく]/get on [off] a bicycle 自転車にまたがる[から降りる]/pedal a bicycle 自転車をこぐ/lock a bicycle 自転車に鍵をかける/I usually go to school **by** [on a] bicycle. 私はふだん自転車で学校に行きます (by の後では無冠詞; →by<sup>1</sup> 2a 語法▶).

**関連▶** 自転車の種類 ▶a folding ~ 折りたたみ自転車/a motor ~ 原動機付き自転車/a mountain ~ マウンテンバイク/a racing ~ 競技用自転車/la stationary [an exercise] ~ (据え付け式の)トレーニング用自転車/a tandem タンデム (2人が乗ってそれぞれがこぐ).

- ・ 語義に続き、二重丸かっこ(《 》)を使って(《くだけて》bike)と記されているのに注意させる。章のタイトルにも使われているbikeが主にくだけた場面で使う同義語であることを確認させる。紙の辞書なら2ページ先のp. 193にbikeがあるのでチェックさせて、教科書のこの章では「オートバイ」を意味するbikeではなく、「自転車」の意味で使われていることを確かめさせる。
- ・ 発信力をつけるため、基本的な名詞はよく使われる語句との組み合わせ(コロケーション)で覚えさせたい。辞書の第5用例が教科書本文と同じon a bicycleを使っているので参照させ、「自転車で」という表現に前置詞onが使われることをチェックさせる。第4用例までは動詞とのコロケーションが示されているので確認させるとよい。
- ・ 辞書の第5用例は角かっこ[ ]を使ってby bicycleと言い換え可能であることを示しているので確かめさせる。byでは不定冠詞のaは付かないことにも注意させる。
- ・ **関連▶** コラムには発信に使える表現が出ていたのでチェックさせると語彙への興味も深まる。

- ・ 「手段」を表すonを理解させるため、前置詞on(p.1341)の【手段・原因】というサインポストをチェックさせる。さらに[ ]に示された大まかな意味・用法で『移動』と示されている語義**11**に注目させ、自転車の用例が出ている語義**11b**に導き、個人の移動手段として「…を使って」という意味を表していることを確認させる。

**【手段・原因】11** 『移動』 a (中を歩いて移動できる乗り物)で、…に乗って、…を使って(→off) ▶More people travel in cars than **on** planes [trains, ships]. 飛行機[列車、船]より車で旅行する人の方が多い (by 選択すべき交通手段として単に「飛行機[列車、船、新幹線]で」という場合は by plane [train, ship, shinkansen] を用いることが多い; →by<sup>1</sup> 2a, 語法▶). b (個人の移動手段として) (自転車・スケート・スキーなど)を使って、(徒歩)で ▶**on** foot 徒歩で/come over **on** one's bike 自転車に乗ってやって来る/I've never been **on** a horse. 私は馬に乗ったことがない。

(2) after 図 **1b**, p. 39.

**b** [A after B] B (事・時期)のあとA (ある期間)経ってから (by 図) Aは... years [days, months] など、具体的な期間の表現; BのあとA (すぐに・間もなくなど) (by 図) Aは soon, shortly, right, just, (not) long, immediately, straight など ▶**Shortly** [Soon] after that they got married. その後すぐ彼らは結婚した/She quit her job **not long after** that. 彼女はその後間もなく仕事を辞めた。

- ・ 教科書本文(soon after the trip)ではafterの前後に違う語句があることから、[A after B]という文型表示がある語義**1b**に導く。Aの部分soonであることから「BのあとA (すぐに・間もなくなど)」と記された語義の後半部分を確認させる。
- ・ 辞書の第1用例をチェックさせ、教科書本文と同じsoon after ...がよく使われる表現として太字で示されていることに注意させる。また角かっこ[ ]を使ってshortlyと示されていることから、soonとshortlyは言い換え可能であることを注意させる。
- ・ 語義に続いてsoonの他によく使われる語句がby 図のロゴを使って示されているので確認させるとよい。

## Lesson 1 – Section 1

(3) seriously 図 成句 **take A seriously**, p. 1708.

**se·ri·ous·ly**\* /sɪəriəsli/ [→serious]

— 図 (比較なし/2, 3は more ~; most ~) 1 まじめに, 本気で, 真剣に ▶I am *seriously* concerned about his future. 私は彼の将来を本気で心配している。

2 (事態・問題が) 深刻で; (病気・傷が) 重く ▶The (opinion) poll should be taken *seriously*. その世論調査の結果は深刻に受け止めねばならない/be *seriously* ill [injured] 重病[重傷]である。

3 慎重に, 思慮深く; 物静かに。

4 《くだけで》 [[ 図 の前で ] 相当に, かなり(裕福な・多くの) (very) ▶become *seriously* rich 大金持ちになる。

5 (話) [[ Seriously? ] 本気(正気)かい ( 相手の発言を受けて) 。 6 (話) [[ 文修飾 ] まじめな話だけど, 冗談はさておき ▶*Seriously*, I disagree with you. まじめな話, 君には同意できない。

**take A seriously** A (人・物) を重要[尊敬すべき]であると思ふ; A を深刻に受け止める (↑2)。

- 成句 は 1 つしかないのですのですぐに参照させることができる。山形かっこ 〈 〉 を使って A の部分には「人や物」が来ると記されているのに注意させる。教科書本文では A の部分が me となっているので, ここでは「私の(言う)ことを深刻に受け止めて[まともに取りあって]くれる人はいなかった」という意味になることを理解させる。
- 成句義に続いて (↑2) と記されているので語義 2 を調べさせる。辞書の第 1 用例が take A seriously の受け身文(A は the (opinion) poll)になっているのでチェックさせる。take A seriously の A が物(this problem)になった例は教科書脚注 8 にも出ているので比較させるとよい。

(4) if 図 成句 **If not**, p. 968.

**if not** (1) [[ if を用いた文や yes-no 疑問文の後で ] もしそうでないなら (→if so) ▶I'll do it tonight if I have time. *If not*, I'll do it tomorrow. 時間があれば今夜やります。なければ明日やります。 (2) [[ A ~ B ] B とは言わないまでも A (以上) は ▶He'll be a minister *if not* prime minister. 彼は総理大臣とは言わないまでも, 大臣にはなるであろう/Oral promises are difficult, *if not impossible*, to enforce. 口約束は, 不可能とはいわないが, 守らせるのは難しい。 (3) [[ A ~ B ] A, いやおそらくは B ▶hundreds, *if not* thousands, of years 何百年, いやひょっとしたら何千年も ( 2) との区別は A, B に来る語句の意味関係にもよりあいまいな場合がある)。

- if を使った成句はたくさんあるので用法や意味を調べ, しっかりと覚えさせたい。教科書本文が If I succeeded と if 節を使っていることを確認させる。[[ ]] に示された大まかな意味・用法の部分で「if を用いた文や yes-no 疑問文の後で」と記している成句義(1)を参照させる。

- 辞書の用例と用例訳を教科書本文と比較させ, 教科書のこの部分が「もし私が成功すれば, それは申し分ないだろう。もし成功しないなら[しなくても], 私は失敗を受け入れることを学ぶであろう」という意味になることを理解させる。

- 成句義(1)の直後に(⇔if so)という反義語への参照指示が付いているのでチェックさせる。成句義や辞書用例から if not と反対の意味で使われていることを確かめさせる。

**if so** もしそうなら (→if not) ▶Did the universe have a beginning, and *if so*, what happened before then? 宇宙には始まりがあったのか, そしてもしあったのなら, その前には何が起ったのか。

(5) leave<sup>2</sup> 図 1, p. 1096.

**leave**<sup>2\*</sup> /li:v/ [語源は「楽しみ」]

— 図 ( ② ~s /-z/) 1 図 休暇; ③ 休暇期間 (→holiday 類義) ▶I went home on *leave* for two weeks. 休暇で2週間家に戻った/take a week's *paid leave* 1週間の有給休暇をとる/*annual leave* 年次休暇/take a *leave of absence* 休暇をとる。

2 図 (かたぐ) «…する» 許可 (permission) «to do» ▶*without leave* 無許可で/give A *leave* to stay in the U.K. A (人) に英国での滞在を許可する/take *leave* to do 勝手ながら…する/by [with] your *leave* 失礼ながら。

3 図 (かたぐ) いとまごい, 別れ ▶take A's *leave* = take *leave* of A A (人) にいとまごいをする。

**take leave of one's senses** 気が狂う, おかしくなる。

**without (so much as) a by your leave** 《やや古》許可を請うことなく, 失礼にも。

**leave**<sup>3</sup> 動 ④ (植物が) 葉を出す (leaf)。

- 同じつづり字で語源が違う語がある場合は右肩に数字で示されていることを確認させ, leave には leave<sup>1</sup>, leave<sup>2</sup>, leave<sup>3</sup> があること, 教科書本文では a two-year leave と不定冠詞, 形容詞に続いて用いられているので名詞であることから leave<sup>2</sup> を参照させる。
- 教科書本文では不定冠詞の a を伴っていることから語義 1 の ④ の語義をチェックさせる。辞書の第 2 用例が教科書本文と同じく動詞 take や期間を表す語と共に用いられているので参照させ, 教科書のこの部分が「2年間, 学校から休暇期間をとる[休学する]」という意味になることを確認させる。

*Crown English Communication II*, p. 6.

—2

On May 7, I started on my bicycle tour from the Los Angeles airport. When I stopped at a traffic light, I heard someone calling, “Hi! Where are you <sup>(1)</sup>headed?” It was a young man on a bicycle.

I said, “New York!”

Looking a little <sup>(2)</sup>puzzled, he said, “Where did you say you’re going?”

“New York.”

“New York!” he repeated.

I could hardly understand his English; all I could <sup>(3)</sup>figure out was that his name was Dennis and that he was inviting me to his house. After a moment’s <sup>(4)</sup>hesitation, I accepted.

## Lesson 1 – Section 2

### (1) head 動 2, p. 900.

2 [〜 A + 動] A (乗り物など)を向かわせる, 向ける; (主に米) [be ~ed + 動] 向かう, 進む (1 動は方向・場所などの表現); [be ~ed for [toward] A] A (ある事態)へと向かう ▶ head a ship southward 船を南に向ける/be headed for Rome ローマへ向かう/be headed for trouble 困難な状況へと向かう。

- 教科書本文では -ed がついて動詞としての語尾変化をしていることから, ここでは名詞の head ではなく, 動詞であることに注意させる。
- 教科書本文では, 場所を表す疑問詞 (where) と共に使われていることと, 受け身文であることを確認させたい。用法指示に [be ~ed + 動] と受け身の形が示されている語義 2 へ導き, 2 の説明に「動は方向・場所などの表現」を記されていることを確認させ, 教科書本文では「向かう, 進む」という意味になることを確認させる。
- 二重丸かっこ ( ) を使って (主に米) と記されているので, 主にアメリカ英語の用法であることをチェックさせる。

### (2) puzzled 動 1, p. 1532.

puz-zled\* /pʌz(ə)ld/ 1 人々が「…で」とまどって, 当惑して «about, at, over, as to»; [be ~ to do/wh 節・句/that 節] …して…かということに, …ということに」とまどって, 当惑して ▶ I was puzzled about the story. 私はその話を聞いて当惑した/We were deeply puzzled (to find) that we had lost our way. 私たちは道に迷った(とわかって)途方に暮れた/look puzzled (as to) what to do どうしたらよいかとまどいを見せる。

- 教科書本文では分詞構文の中で使われているが, 主文の主語が he であることから, 省略されている主語が人を表していることを確認させる。一緒に用いられることの多い名詞に関する情報(選択制限)がく を使って示されているのでチェックさせて, 主語として人を取ると記した語義 1 へ導く。
- 辞書の第 3 用例が教科書本文と同じ look を用いたものになっているので参照させ, 教科書のこの部分が「少し当惑した表情をして[とまどいを見せて]」という意味になることを理解させる。
- 紙辞書ならすぐ上の他動詞 puzzle も参照できるので 2 つの語を比較させて, puzzled という形容詞が puzzle という動詞から派生したことを確認させるのもよい。

### (3) figure 動 成句 figure A out, p. 710.

figure out\* 《くだいて》《…であることが/…かが》わかる «(that)節/wh 節» ▶ try to [and] figure out how much sleep you need どれだけ睡眠が必要か考えてみる。

figure A out [out A]\* 《くだいて》(1) A (問題など)を解決する, A (理由など)を理解する ▶ I can't figure it [him] out. 私にはわからない[彼のふるまいが理解できない]/figure something out 解決策を見つける。(2) (計算して) A (答え)を出す; A を計算する。

- 教科書本文では all が代名詞で, 後ろに目的格の関係代名詞 that が省略されており, I could figure out の目的語に相当することを確認させ, 自動詞の figure out ではなく他動詞の figure A out を参照させる。
- 他動詞用法も自動詞用法も重要成句を示すアステリスク(\*)がついていること, 二重丸かっこ ( ) を使ってくださった表現だと記されていることにも注意させる。
- 教科書本文では助動詞 could と共に用いられていることをチェックさせる。辞書の第 1 用例が can't を使っていることから成句義(1)を参照させ, 教科書のこの部分が「理解できたのは…ということだけだった」という意味になることを確認させる。

### (4) hesitation 名 1, p. 916.

hes-i-tation\* /hɛzɪt(ə)ʃ(ə)n/ [→hesitate]

1 図 (動) ~s /-z/ 1 具体例では a (...) ~ 1 «…することにおける/…に対する》ためらい, ちゅうちょ, 気乗りしないこと «in doing/over» (1 図) ~ in doing は否定文・疑問文が普通 ▶ without hesitation ためらわずに, ちゅうちょせずに/I had no hesitation in accepting the job. その仕事を引き受けるのに何のためらいもなかった/after some hesitation ちよつとためらった後に。 2 口ごもり。

- 教科書本文では a moment's hesitation と不定冠詞を伴っていることを確かめさせる。図のロゴに続いて [具体例では a (...) ~] という用法指示があるので注意させて, 教科書のこの部分では著者が実際に感じた「一瞬の(moment's)ためらい」を表していることを理解させる。
- 第 3 用例が after を使っている語義 1 へ導き, 教科書本文が「一瞬のためらいの後に」となることを確認させる。
- (2) の puzzled と同様に, 紙辞書ならすぐ上の自動詞 hesitate も参照できるので 2 つの語を比較させて, hesitation という名詞が hesitate という動詞から派生したことを確認させることができる。

*Crown English Communication II*, p. 7.

Dennis was sharing a house with a friend and his wife, who <sup>(1)</sup>happened to speak Japanese. I had dinner with them—fried chicken and fried potatoes with ice cream for dessert. Dennis took out something for me to read: it was a list of people who supported traveling cyclists. Dennis explained that I could stay in any one of their homes with free meals.

The directory was very useful. While cycling across America, I made full <sup>(2)</sup>use of it, visiting 20 homes and meeting many friendly people. Meeting Dennis and receiving this great gift on the <sup>(3)</sup>very first day of the trip made me wonder at the mystery of human life. So much of life <sup>(4)</sup>depends on luck and chance.

(1) happen 動自 3, p. 879.

3 [happen to do] 〈人・物・事が〉偶然[たまたま, ちょうど]…する; [it ((just) so) happens (that) 節] たまたま…(ということ)である (1) 進行形にしない. (2) (just) so の代わりに often, sometimes など頻度の 副 を用いることがある ↓ 第6例) ▶ I happened to be [It happened (that) I was] in the bath when the phone rang. 電話が鳴った時たまたま私は風呂に入っていた/Do you happen to know his phone number? ひょっとして彼の電話番号をご存じでしょうか (1) 知識の有無を偶然のせいにした控えめな質問; しばしば know, love, like, want などの 動 を伴って) / If you (should) happen to come here again, give me a call. 当地にまた来ることがあったら電話ください (1) should は「ありそうもない」を含意/The door happened to be open. 戸はたまたま開いていた/It just happened that way. 本当にたまたまそうなのです/It often happens that you destroy a community in order to save it. 地域社会を救おうとして破壊してしまうことがよくある (1) You often destroy .... や Often, you destroy .... の方が普通).

- 生徒は happen といえば「…が起こる」と最初から思い込みがちなので、語が使われる形と意味をセットにして学習させたい。教科書本文では happened to speak と to 不定詞が続いていることを確かめさせ、**[[happen to do]]**という文型表示がある語義 3 へ導く
- 意味が「…が起こる」ではなく「偶然[たまたま, ちょうど]…する」であることを確かめさせ、教科書のこの部分では「たまたま日本語を話した」という意味になることを理解させる。
- 太字になっている辞書の第2用例をチェックさせる。happen to know は、用例の 1 注記にあるように控えめな質問としてコミュニケーションの場でよく使われるので、用例・用例訳を確認させる。

(2) use 名 成句 make (...) use of A, p. 2082.

make (...) use of A \* 《書》A 〈物〉を(…に)利用する, 使う (1) コーパス (...) は good, the best, full, extensive など) ▶ She made good [the best, maximum] use of her opportunity. 彼女は機会をうまく[最大限]利用した/No other use is made of this information. この情報はほかのいかなる目的にも使用されません (1) このように use を主語にした受け身も可能).

- 動詞の use と同じく「利用する, 使う」を意味する成句であることを確認させる。二重丸かつこ( ) を使って《書》と記されているので、動詞の use に比べ、主に書き言葉で用いられる句であることをチェックさせる。
- use の前に修飾語句を置くことで「…に利用する」という表現が可能であることに注意させる。コーパスを使って見つかった事実を記している 1 コーパスの注記に、よく用いられる修飾語句がリストされているが、そこに教科書本文で使われている full も含まれていることを確認させる。辞書の2つの用例から他の修飾語句もチェックさせるとよい。

(3) very ㊦ 2, p. 2095.

2 ㊦ の最上級, first, last, same, next, opposite や own の前で強調して『まったく, まさに, 本当に』▶My father is out on the golf course *for his very first time*. 父は生まれて初めてゴルフコースに出ている/I'm going to do *the very best* I can do. 僕は最善を尽くすつもりだ/After twenty years, I finally got my *very own* office. 20 年目にしてついに自分自身のオフィスを手に入れた/I saw *the very same* jacket in the market for half the price. まったく同じ上着を市場で半額で売っているのを見つけた/This is the *very latest* style. これはまさに最新のスタイルだ/I can't be there before 7:00 at the *very earliest*. どんなに早くても7時前にはそこに行けない。

- ・ very にある「大変, 非常に」以外の意味を調べさせたい。語義 2 には㊦の最上級, first, last, same, next, opposite や own の前で強調して』という用法指示があり, 教科書本文の very first が該当することを確かめさせる。
- ・ 語義や辞書の用例訳をチェックさせ, 教科書本文が「まさに初日に」という意味になることを確認させる。
- ・ 辞書の第 1, 2, 4 用例は太字で示されている頻出表現なので確かめさせる。

(4) depend ㊦ 1, p. 504.

**de·pend** \* /dɪˈpend/ [de (下へ) pend (ぶら下がる)]  
((名) dependence, (形) dependent)  
―― 動 (～s /-dz/; ～ed /-ɪd/; ～ing)

―― ㊦ 1 [depend on [upon] A] (事が) A (人・物・事) 次第である, A によって決まる[影響を受ける]: [depend on [upon] wh 節] …か(どうか)による (㊦ いずれも通例進行形にしない; upon は on よりも《かたぐ》響く) ▶Your success *depends entirely [solely] on* your effort. 君が成功するかはひとえに自分の努力次第だ/The cost of living *depends (on) where* you live. 生活費は住む場所によって違う (㊦ wh 節が続く場合, 《くだけて》では on は省略されることが多い)/Well, (it) *depends on the circumstances*. そうだね, それは状況によるな (㊦ 《くだけて》では前述の内容をさす it が省略されることがある)。

2 (㊦ 通例進行形にしない) a [depend on [upon] A (for B)] (人が) (B (援助・お金など) を) A (人など) に依存する, 頼る (rely on) ▶All of us *depend on* you. 私たちはみんな君を頼りにしているんだよ/Bob *depends on* his uncle for food and clothing. ボブは衣食におじに頼っている。

b [depend on [upon] A to do] …するのに A (人・物) を頼る (㊦ 不定詞 to do は目的を表す副詞句で意味上の主語は文主語に一致する; ↓ 3b) ▶The refugees had to *depend largely [heavily] on* food aid to stay alive. 難民は生きるために食料援助に大きく頼らざるを得なかった。

3a [depend on [upon] A] (人が) A (人・物) を信用する, 当てにする (rely on) ▶a guy who can't be *depended on* 頼りにならないやつ (㊦ depend on を ㊦ とみなした受け身が可能)/Can I *depend on* this timetable? この時間表は合っているの。

- ・ 教科書本文で depends on luck and chance と前置詞 on, 名詞 luck, chance が後続していることを確かめさせ, 文型表示が [depend on [upon] A] となっている語義 1, 2a, 3a に注目させる。
- ・ 教科書本文では主語が人ではなく, 事(so much of life)であることを確かめさせる。一緒に用いられることの多い名詞に関する情報(選択制限)が訳語部分にくゝを使っで示されているのでチェックさせる。語義 2a, 3a は人を主語としてとるが, 語義 1 は人・物・事のいずれも主語にとると記されていることから語義 1 に導く。
- ・ ㊦ を使った注記を調べさせ, 進行形にはしないこと, upon を使って言い換えられるがかたい響きになることを確かめさせる。
- ・ 辞書の第 1 用例や用例訳を参照させて, 教科書本文が「人生のとても多くは, 運や偶然によるのである」と述べていることを理解させる。

*Crown English Communication II*, p. 8.

—3

During my bicycle tour, there were good days and bad. I was always getting <sup>(1)</sup>flat tires: 18 times! And weather was sometimes a problem. People were helpful—but not always.

Most days I slept in a tent. In Spain, it rained day after day. One morning, when I woke up everything was wet, even my sleeping bag. I had to move to a hotel.

In Cambridge, England, when I was writing in my diary, someone began to <sup>(2)</sup>throw stones at my tent. I heard kids singing a song that seemed to make fun of Asians. Was it <sup>(3)</sup>racial discrimination or was it just a joke? I reminded myself that I had



*Crown English Communication II*, p. 9.

good friends in England  
and decided not to get  
angry. But it was a dark  
night for me.

In France, I lost  
my passport. Luckily,  
some honest person  
(1)turned it in to the police.  
I got it back a few days  
later. Along the way, I  
was often impressed  
with the kindness of  
strangers.

In Milan, Italy, all my belongings were stolen.  
I felt very sad and even (2)thought of quitting the tour.  
Then I remembered all the acts of kindness I had  
experienced and decided to keep on going.

I visited 26 countries, riding about 20,000  
kilometers. On September 17, 1980, I came back  
home (3)safe and sound.

(1) turn 動成句 **turn A in**, p. 2041.

**turn in** (1) 〈足の指〉が内側に向く。 (2) 〈くだけて・やや古〉(夜に)床に就く。  
**turn in A** A 〈良い結果・好成績〉をあげる; A 〈仕事など〉をやっている; A 〈利益など〉を上げる。  
**turn A in [in A]** (1) 〈くだけて〉「警察などに」A 〈人・違法な所有物など〉を引き渡す, 届け出る; 〈犯人〉の居場所を知らせる「to」▶He turned himself in after six months on the run. 彼は6か月の逃亡の後に自首した。 (2) 〈主に米〉A 〈不要な物・借りた物など〉を返却する (return); 「…に」A 〈拾い物など〉を届ける「to»; A を下取りに出す ▶He had to turn in his uniform when he left the army. 彼は軍隊を去るときに制服を返却する必要があった。 (3) 〈主に米〉A 〈仕事・宿題など〉を(当局・会社・先生などに)提出する, 渡す (hand in) ▶turn in the essay by Friday 金曜までにレポートを出す。 (4) A を(内側へ)折り込む, (折り)曲げる; A を中に入れる。 (5) A 〈家畜〉を(囲いなどに)追い込む。

- turn のような基本的な動詞には前置詞・副詞と組み合わせた句動詞が多いので, 教科書に出てくるたびに確認させたい。turn と in からなる成句は3種類(turn in, turn in A, turn A in [in A])あるが, 教科書本文の形(turn it in)と合っている turn A in [in A]を参照させる。重要成句として赤いアスタリスク(\*)が付いていることにも注意させる。
- 教科書本文が失くしたパスポートの話をしていることから成句義(1)を参照させる。「警察などに」と表現する場合, 前置詞は to を使うと二重山形かつこ「」で囲って示されているのをチェックさせて, 教科書本文と合っていることを確認させる。
- 成句義番号に続いて二重丸かつこ「」を使って「くだけて」と記されていることから, くだけた表現であることに触れるのもよい。

(2) think 動成句 **think of doing**, p.1968.

**think of [about] doing** (1)「しばしば進行形で」…しようかと考える (1 be going to do, intend to do などと違ってまだ決心はしていない) ▶Bill was thinking of [about] asking Sue out. ビルはスーをデートに誘おうかと考えていた (1 ... thinking to ask Sue out. とするのは「非標準」)。

**類義** of doing は選択肢や過程を意識し, about doing は時間をかけて慎重に熟考していることを暗示する ▶They were thinking very carefully about visiting the country. 彼らはその国の訪問を慎重に検討中だ (1 慎重さというこのような文脈では of visiting は「不自然」)。

(2)「しばしば否定文で」…することを想像する ▶We couldn't think of being rude to Lizzie. リジーに失礼な態度をとるなど思いもよらなかった。

- (1)で調べさせた turn と同様に, 使われる形と意味の両方をしっかり意識させたい。成句見出しには think of [about] doing と, 角かつこ「」を使って of の代わりに about も用いられることを示しているので注意させる。
- 成句義(1)と(2)を比べさせて, 「旅をやめようとさえ考えた」という意味になる成句義(1)の方が教科書本文のこの部分に合っていることを確かめさせる。
- 2の注記に, 「まだ決心はしていない」と説明されているのをチェックさせる。教科書本文では後続する文から結果的には旅をやめるという決心には至らず, 旅を続けたことを確認させる。

(3) safe 形 3, p.1650.

**3** 〈人・物が〉無事な, 無傷な (1 be, come, arrive, return, bring, see, keep などの補語として用いる) ▶The president and his party arrived safe. 大統領一行は無事に着した/The kidnapped politician was found safe and sound [well]. 誘拐された政治家は無事発見された/I prayed for my son's safe return. 息子が無事に戻るのを祈った/Have a safe trip [(英) journey]. 《話》気をつけて行ってもらえ。

- 辞書の第2用例が教科書本文と同じ safe and sound になっている語義3に導く。このコロケーションが重要表現として太字になっていることもチェックさせる。用例訳から「無事(に)」という意味になることを確かめさせる。
- 2で示された注記に共に使われる動詞がリストされているのでチェックさせる。教科書本文と同じ come も出ているので確認させる。
- sound が「音」という意味の名詞(sound<sup>1</sup>)ではなく, 形容詞(sound<sup>2</sup>, p. 1810)なので合わせて調べさせるのもよい。語義5に「健全な, 健康な」という意味があるので, 教科書本文の内容と合っていることを確認させる。
- 5 〈人・肉体・精神などが〉健全な, 健康な (1 病気やけがなどがなく完全な健康状態であることをさす) ▶A sound mind in a sound body. 《ことわざ》健全な身体に健全な精神(が宿らんことを)/The crew's body is sound. 乗組員(は)けがひとつなく健康だ。

*Crown English Communication II*, p. 10.

—4

Back in Japan, I <sup>(1)</sup>remember people asking me the same question: “What did you learn from the trip?” I always found myself hard put to answer. It is true that I visited a <sup>(2)</sup>number of countries, and this experience would <sup>(3)</sup>turn out to be useful for the rest of my life. I also made lots of friends, while learning to live on my own.

I know that people wanted to hear big generalizations. But I simply couldn’t say something like: “Life is hard, so we have to learn to live with

## Lesson 1 – Section 4

(1) remember 図 1b, p. 1586.

**b [remember (A [A's]) doing]** (A (人)が)…したことを覚えている (↓3 語法) ▶I remember being impressed with his work. 彼の仕事ぶりに感銘を受けたのを覚えています/I remember my father [(かたく) father's] saying once, "Never give up." 私は父がかつて「絶対あきらめるな」と言ってくれたのを覚えている/I remember him [(かたく) his] going fishing with Bob. 彼はボブと釣りに行ったと僕は記憶している/I remember seeing you several times. 何度かお会いしたのを覚えています/She remembers thinking how smart her teacher was. 彼女は先生って何て頭がいいのかしらと思っていたのを覚えている。

- 語がどのような形で使われているかを常に調べる習慣をつけさせたい。教科書本文が remember people asking ... となっていることから、重要文型表示が **[[remember (A [A's]) doing]]** となっている語義 **1b** をチェックさせる。丸かっこ ( ) は省略可能な要素を、角かっこ [ ] は言い換え可能な要素を示していることに注意させ、教科書本文では people が A に相当することを確かめさせる。辞書の第2用例を参考に、教科書本文が「私は人々が同じ質問をしたのを覚えている」という意味になることを理解させる。
- 辞書の第2, 3用例の角かっこを使った言い換え部分に(かたく)と記されていることを確かめさせ、所有格で言い換えた場合はかたい表現になることに注意させる。
- 語義 **1~3** はいずれも文型表示があり、重要な用法なのでチェックさせる。加えて語義 **3** に続く **語法** には remember に to 不定詞が後続する場合と動名詞が後続する場合の違いがまとめてあるので復習させるのもよい。

**語法** remember doing と remember to do  
remember doing の doing はすでにやってしまった過去の内容を表し、remember to do の to do はその時以降に達成すべき内容を表す ▶I remember mailing the letter. ≡ I remember (that) I mailed the letter. 手紙を投函した覚えがある (↑「投函したことを覚えている」の意)/I remembered to mail the letter. ≡ I didn't forget [never forgot] to mail the letter. 忘れずに手紙を投函した (↑「投函すべきことを忘れなかった」の意)。なお、過去の内容を述べるのに remember(ed) having done を用いるのは(まれ)。

(2) number 図 1a, p. 1315.

**num·ber** /nʌmbər/ [原義は「(人・物の)数」]  
(形) numeral, numerous

— 図 (数) ~s /-z/ 1 図 a [通例複数数扱い] [a number of A] (正確にはわからない不特定な数を表して) **いくつかの A (人・物)**, 数個[数人]の A (several, some); (米) (特に)いくつもの A, 何個[何人]もの A, **多くの A**, 多数の A (many) (↑(米)では肯定的に「多くの」の意で用いることが多い); [a + 図 + number of A] **…な数の A (人・物など)** (↑(1)いずれも A は通例 図 名詞複数形・集合名詞で無冠詞; →family 図 1 文法). (2) 図 は通例数の大小を表す; ↓ **コーパスの窓** (3) **コーパス** 時に「図 + numbers of A」となることがある; ↓ 第2例, **コーパスの窓** (2). (4) 数の一致については ↓ **語法** (1) ▶a number of years ago 何年か [(米) 何年] 前/a large number [large numbers] of people 多くの人々 (↑(1) a lot [lots] of より(かたく)響く. (2) 図 名詞には通例 a great deal [a large amount] of A を用いる)/We also discussed a number of other issues. 我々はほかのいろいろな問題も議論した/a number of different reasons さまざまな理由.

- 教科書本文が a number of countries と不定冠詞 a と of の組み合わせになっているのを確認させて、文型表示が **[[a number of A]]** となっている語義 **1a** に導く。赤字で示された「いくつかの A」という語義と「多くの A」を比較させる。教科書 Section 3 で「26 か国を自転車移動した」と述べていたので、この部分では「多くの国々」の方が文脈にふさわしいことを理解させる。
- 文型表示が **[[the number of A]]** となっている語義 **1b** (p. 1316) をチェックさせる。冠詞ひとつで意味に違いが出ることに注意させる。

**b [the number of A]** [通例単数扱い] **A (人・物などの(総)数)** (↑A は通例 図 名詞の複数形で無冠詞) ▶The number of students remained the same. 生徒数は変化がなかった (↑具体的な数という場合は there are... を用いる方が普通: There are 800 students in this school. この学校には800人の学生がいる)/This fire brought the number of fires in July to forty-five. この火事によって7月の火災件数は45件になった/What [×How much, ×How many] was the number of (the) people coming to the party? パーティに来たのは全部で何人だったの (↑特定の人・物をさす場合, the, one's, these などの限定詞を伴うことがあるが(比較めまれ); →some 図 1 文法).

- 語義 **1a** に続く **コーパスの窓** には number を修飾して、数の多少を表す形容詞について言及があるので参照させるとよい。

### コーパスの窓 a number of A

(1) 数の多少 数の多少を明確に表すため、さまざまな 図 を伴う。多数を表す場合、通例 large, any (↓ **成句**), 時に huge, quite a (↓ **成句**), great, fair, vast, enormous, high, considerable, good, big などを用いる。ただし ×many は用いない。少数を表す場合、通例 small, 時に modest, tiny, low などを用いる。ただし ×(a) few [little] は用いない。このほか、growing (増大しつつある), increasing (増加しつつある), limited (限られた), certain (ある), significant (有意な), surprising (驚くほどの), record (記録的な)などもよく用いられる ▶An increasing number of young people remain unemployed. 失業したままの若者の数が増えている。

(3) turn 動成句 **turn out**, p. 2041.

*turn out*・(1)「〔～ out (to be) C〕〈物・事が〉結局Cになる; Cだとわかる, 判明する (Cは 図 図)」▶Everything *turned out* well [all right, fine]. 結局すべてがうまくいった / I thought I knew everything, and *it turned [turns] out (that)* I knew nothing at all. ≒《話》... everything. *Turns out* .... 私はわかっているつもりだったが結局何もわかっていなかった (1) it は that 節をさす形式主語; →it 4 [文法]. (2) 現在形ではたった今わかったことを示す; その際《話》では it が省略されることがある) / The trouble *turned out to be* more serious than we had thought. 問題は我々が考えていたより深刻なものだとわかった / The morning was rainy, but the afternoon *turned out* nice. 朝は雨模様だったが午後は晴れた / He was very sick, in what *turned out to be* the last week of his life. 彼の具合が非常に悪かったのは、彼の人生最後の1週間となる週であった / I needn't have hurried, *as it* [things] *turned out*. 急ぐ必要はなかったんです, 結局は. (2)「〔～ out + 動〕(物事が) 進行する」▶*turn out* well うまくいく. (3)《行事などに/…しよう》と 出かける, 繰り出す《for/to do》. (4) 外側に向く〔曲がる〕. (5)《くだけて》ベッドから起き上がる.

- ・ 重要成句として赤いアステリスク(\*)が turn out に付いていることをチェックさせる。教科書本文が turn out to be useful であることを確かめさせ、用法指示が「〔～ out (to be) C〕となっている成句義(1)を参照させる。4の注記に「Cは図 図」と記されており、教科書本文では形容詞の useful が使われていることを確認させる。
- ・ 成句義から教科書本文が「この旅の経験が将来役立つだろうとわかった」という意味になることを理解させる。
- ・ 文型表示の丸かっこ( )に囲まれた部分は省略可能であることを注意させる。辞書の第3, 第4用例は共に形容詞が使われているが, to be の有無の違いがあることを確かめさせる。

*Crown English Communication II*, p. 11.

one another,” or “What is most important for human beings is freedom; I am ready to give my life for freedom.” Instead, I would just smile and <sup>(1)</sup>mumble, “Well, nothing much. I may find my experience helpful in the future. I don’t know.”

I’m now 18. At this point, I still cannot answer <sup>(2)</sup>definitively what I learned from my trip. There is a long <sup>(3)</sup>stretch of road in front of me, branching off into a number of winding roads further ahead. In the future, as I look back, I hope to be able to say what I learned from my trip. All I can say now is that the boy who returned home was a different boy from the one who left Japan 16 months earlier.

(1) mumble 図 1, p. 1259.

**mum·ble**† /mʌmb(ə)l/ 動 ① 1 (聞き取れないほどの声で) «人に» …をつぶやく, ぶつぶつ言う «to»; [~ that 節/《書》直接話法] …とつぶやく (→say ① a 語法, murmur) ▶ Jack mumbled something about having to leave

- 教科書本文では引用文が続いていることをチェックさせる。用法指示に [~ that 節/《書》直接話法] と記された語義 1 に導き、意味を確認させる。
- 語義の末尾に「→say ① a」と参照が示されているのに注意させる。p. 1664 には直接話法についての 語法 コラムがあるので適宜参照させる。

語法 直接話法

(1) 直接話法は人の発言を正確に引用して伝える方法。伝達の様態を示す伝達部(以下の文の Mark said)と実際の発言内容を示す引用部(“...”からなる。伝達部に現れる 動 は一般に ② に分類され引用部は目的語として扱われることが多いが、動詞の他動詞的な性質は弱く、引用部を主語にした受け身にできない ▶ Mark said, “Lizzy and I got married in June.” マークは「リジーと私は6月に結婚した」と言った (× “Lizzy and I got married in June” was said by Mark)。

- 同じページの下には派生語が見出し語になっている例(deflate の派生語 deflated, deflation, deflationary など)が、右側には追い込み派生語になっている例(defray に追い込まれた派生語 ~able, ~al, ~ent など)があるので、派生語がどのように扱われているかの具体例としてチェックさせるのもよい。

**de·flate**† /di:fléit/ 動 ① 1 (風船・タイヤなどの空気[ガスを]抜く, …をしぼませる ((英) LET<sup>1</sup> A down) (↔inflate). 2 (人)の自信をなくさせる, 希望をくじく; (自尊心)を傷つける (しばしば受け身で). 3 (記事・議論)の間違いを指摘する. 4 (経) (経済などを)収縮させる, (物価などを)引き下げる. — ② 1 (風船・タイヤなどが)空気が抜ける, しぼむ (go<sup>1</sup> down). 2 (経) デフレ政策をとる.

**dè·flát·ed** /-id/ 図 自信をなくした, がっかりした.

**dè·flá·tion** 図 ① 1 (経) デフレ(ーション) (↔inflation). 2 空気[ガスを]抜くこと; (風船などの)収縮. 3 (地) 風化, 風食.

**dè·flá·tion·ary** /di:fléifjən(ə)ri/ 図 ① 1 (経) デフレ(ーション)の, 通貨収縮の前で

**dè·fray** /difréi/ 動 (～s; ~ed; ~ing) ② (かたく) (経費などを)負担する, 支払う (pay).

~·a·ble 図 ~·al, ~·ment 図

(2) definitively 図 definitive 図, p. 495.

**dè·fin·i·tive**† /difin(ə)tiv/ 図 ① 1 [通例 図の前で] 一番信頼できる, 権威のある(研究など); 決定版の(本); 最高の(演技など). 2 (回答・評決などが)決定的な, 最終の. 3 (生物) 完全に生育した. 4 (郵) (切手が) (記念切手ではなく) 通常の (↔commemorative). — 図 ② 1 (郵) 通常切手. ~·ly 図

- 見出し語にない派生語もあることに注意させる。definitively は definitive の項目の末尾に ~·ly という形で追い込み派生語として記述されているのでチェックさせる。~ (スワングダッシュ)は見出し語と同じつづり部分の省略であることを確認させる。
- 図のロゴは付いているが、訳語は付いていないことをチェックさせる。見出し語になっている単語から意味が類推しやすい場合は訳語が省略されることもあるので注意させる。教科書本文が answer と共に使われていることから、よく一緒に使われる語を示す山形かっこ 〈 〉 に「回答」と記されている definitive の語義 2 を参照させる。語義 2 「決定的な, 最終の」という訳語から、副詞としては「決定的に, 最終的に」という意味になり、教科書本文が「決定的に答えることができない」と述べていることを理解させる。

(3) stretch 図 1, p. 1870.

— 図 ② ~es /-iz/ ① ① (土地などの) 広がり; [a ~ of A] 一帯[一筋]の A ▶ a stretch of desert 長く続く一面の砂漠/a beautiful stretch of river 一筋の美しい川の流れ. 2 ② 直線コース ▶ go into the home [final, finishing] stretch ゴール前の最後の競走路[ホームストレッチ]に入る.

3 ③ [a ~ of A] 一続きの A (期間); 一息(の行為) ▶ a stretch of three months 連続3か月/at a stretch 一息で, 一気に.

- 教科書本文では a long stretch of road と不定冠詞 a が付いていることから、動詞ではなく名詞を参照させる。
- 用法指示に [a ~ of A] と記された語義 1, 3 を比較させて, road が細長く続くものであるため, 語義 1 の方が教科書のこの部分にはふさわしいことを確かめさせる。stretch の前に形容詞 long が付いていることから, 教科書本文が「長く伸びた道」という意味になることを確認させる。